昭和十三年八月一日夜 矢作 一夫

「今般四肥業団本部を訪問したるも、未だ解雇通告一般職工に達し居らざるため、未集せる職工僅かに十四五名に過ぎず、従つて何等の相談も行はれず、具体的運動方法は全職工の参集したる上協議の上行ふべしと約し居たり。

目下のところ自争議の指揮は、今後此れを行ふものとし

八月二日 会合

本日招四肥業団本部を訪ねたるところ、六十名余り参集、種々と具体的運動方法を協議しつゝあり、大体意見の決したるものは、

会社は目下不況にあり、組合を全滅せしむる覚悟にて、多数の馘首を行ふべく、従つて争議長期に亘るべければ持久戦の準備をなすべしとて、

全職工中半数は行商隊を組織し、半数は本部にありて時計の修繕を引受くべき事、而して交替の事、

尚て四肥業団基金募集のため、宣伝隊を結成し、各方面団体へ依頼すべし等の議論も出で、又二十名の者へも本部にありて、種々手伝ふべき旨申し出たり。一般職工は、甚く会社側の誠意なきを憤り居たり。

八月二日夜 矢作